中・高校生の部　入選

岐阜県立飛騨神岡高等学校　二年　中島　咲音

中学生の頃、進路希望調査の将来なりたい職業はいつも空欄。将来の夢がなかった。

高一の夏休み、大好きな祖父に会いに行った。私が大声で「じ・い・じ！会いに、来たよ！咲音だよ」と玄関先で大きな声で叫んでも無表情だった。今までだったら「咲音か。よう来た。よう来た。上がれ。こっちへ来いよ。」くしゃくしゃの顔をして喜んでくれたのに。ショックだった。その後も会いに行く度に耳が遠くなっていった。耳元で話さないと聞こえないくらいにまで重症化した。そんな祖父だったが、祖母が言うには、「おじいちゃんも畑仕事をしている時と咲音が会いに来てくれた時は、表情が明るくなるんだよ。」と。大好きな祖父が落ち込んでいる。こんな祖父を何とか元気にしてあげたい。私にできることがあるのではないかと考え始めた。

学校で職業についての講話を聞いていた時に、現状の祖父の力になれそうな「言語聴覚士」という職業を知った。将来の夢を見つけた瞬間だ。大好きな祖父のための天職だと思った。希望と期待で満ち溢れていた。しかし、天職を見つけたと思った約二週間後に祖父は急逝してしまった。悲しく悔しかった。

世の中には、祖父のように聴覚・視覚など様々な障がいを抱えて生きている人がいる。私は言語聴覚士になって、患者と向き合い個々の悩みに寄り添い問題解決を目指したい。リハビリを行う時は、患者とのコミュニケーションに気を付け、相手の立場に立って考えたい。根気強く向き合うことで一人でも多くの人の手助けをしたい。そして、患者が新しく、生き甲斐を持てるような存在価値のある言語聴覚士になりたいと考えている。

私は祖父を支える夢は叶わなかったが、生き甲斐的な存在であったことは胸を張って自負できる。祖父への夢を、お世話になっている飛騨地域の人々に捧げたい。そして、患者に頼りにされる存在価値のある言語聴覚士になる覚悟だ。青空に祖父の笑顔が見える。